

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 7 月 17 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、愛知県 日本モンキーセンター (Japan Monkey Center: JMC)
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 8 日 ~ 平成 29 年 7 月 10 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 伊谷原一 教授 京都大学野生動物研究センター 大淵希郷 特定助教；日本モンキーセンター キュレーター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

目的

本出張の目的は、愛知県日本モンキーセンター (JMC) において科学コミュニケーションや博物館としての動物園の役割などに関する講義や、飼育作業などの実習を通じ、動物園の役割やその社会とのつながりについての理解を深めることである。

概要

- 7 月 8 日 (土) : JMC の歴史に関する講義
園内の見学/骨格標本を用いた実習
- 7 月 9 日 (日) : 科学コミュニケーション実習
飼育実習
- 7 月 10 日 (月) : 博物館学概論/エンリッチメント実習
獣医実習/研究活動の紹介

所感

動物の骨について学んだことはほとんどなかったので、骨格標本の実習は興味深かった (図 1)。個体ごとに形態に差があること、飼育下で得られる標本の利点 (例：その動物に関するデータが豊富、世代間比較が可能、など) を学ぶことができた。

科学コミュニケーション実習では、どのようにして一般の方々に科学や技術について伝えるか、どのように“対話”するのかについて講義を聞いた。このような、科学や研究と社会との関わり方は自分が興味をもっている内容であり、非常に有意義な実習になった。本実習で得られた知識は、日常の中でも生かすことがで



図 1. ニホンザルの下顎。この個体は、通常個体と比べて臼歯が 1 本多かった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

きるのではないだろうか。

飼育実習では、班に分かれて活動を行った。私たちはキツネザルの担当であった(図2)。飼育員の方から、キツネザルやJMCについて興味深いお話を伺うことができた。また、キツネザルやその飼育環境を間近に見ることができた。エンリッチメント実習は、あいにくの悪天候により、ほとんど行うことができなかったが、また機会があれば是非JMCのエンリッチメントの取り組みについても学びたい(図3)。



図2. ワオキツネザルの母子。コドモは双子である。飼育員の方々は、彼らを顔などの特徴で個体識別できるとのことであった。



図3. ワオキツネザルのケージに設置されたエンリッチメントの遊具。綱にぶら下がった木の棒に穴が開いていて、枝を差すことができた。

6. その他(特記事項など)

本実習の全行程において、京都大学野生動物研究センター特定助教・日本モンキーセンターキュレーターの**大淵希郷氏**にお世話になった。野生動物研究センター 伊谷原一教授、日本モンキーセンター主任 **赤見理恵氏**、霊長類研究所特定助教・日本モンキーセンターキュレーター **早川卓志氏**、日本モンキーセンターキュレーター **綿貫宏史朗氏**、日本モンキーセンターキュレーター **新宅勇太**には、講義や実習で貴重なお話を伺うことができた。日本モンキーセンタースタッフのみなさまにおいては、ご多忙の中丁寧にご指導いただいた。ご協力いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。